



台風12号の影響で冠水した国道180号(作原付近)

丹下 茂

災害対策について

問 台風12号の対応についての反省と今後の対応について、どのように考えているか。

答 大型で大雨をもたらした台風12号の災害に対する反省点として、四つのポイントがある。一点目として、迅速に災害対策本部を設置し、対応を協議した後、自らが現場に行き、高梁川流域を見て、避

難勧告を矢継ぎ早に発していたことなど、迅速に対応できた。

二点目は、インフラの整備であるが、危険箇所に対する適切な対応がなできなかったのかを検討する必要がある。三点目は、自主防災組織ができていない地域の脆弱さというのがよく分かったため、体制強化を図っていかなければならないこと。四点目は、避難場所が正し

かったか、見直しを含めて協議を進めていくことである。(市長)

財政問題について

問 現在の財政状況と24年度予算編成をどのように考えているのか。

答 厳しい予算練りが続くという認識で対応する。全体的な構想として、各部が前年対比ゼロシーリングで編成するべきだと思う。(市長)

頓宮 美津子

自然エネルギーについて

問 東北大震災や近年の災害・異常気象により、国民の関心が原子力への依存から、自然エネルギーに向いてきた。そこで、本市として数値目標などを含め、どう取り組んでいくのか。

答 本市の地形などに合った自然エネルギー利用に創意工夫して真正面から取り組んで

いきたい。(市長)

問 県の調査によると、本市には採算性がある水力発電の候補地もある。ぜひ取り組んでほしいか。

答 新エネルギー検討委員会を設置し、前向きに取り組んでいきたい。(市長)

学校図書館司書について

問 学校図書館の役割は、以前にも増して重要になっているが、本市では学校図書館司

書が兼務になっている。なぜ各学校に一人ずつ配置できないのか。

答 現在13校で兼務。予算の関係で難しい。(教育長)

問 人件費がかかるのは承知している。現在、図書館の指導もあり、読み聞かせボランティアのスキルも向上している。こうしたボランティアに応援してもらうのはどうか。

答 ぜひ取り組んでいきたい。(教育長)



小水力発電(山梨県都留市・「元気くん!」)

難波 正吾

核兵器、原発に対する市長の政治姿勢について

問 国際的にも、日本の中でも、核兵器廃絶を求める世論が高まり、広がっている。また、地震・津波の多い日本に54基もの原発がある。福島第一原発の事故後、原発に替わる再生エネルギーへの転換をという動きがある。太陽光だけでなく、例えばバイオマス

などのエネルギーにおいても、地産地消、雇用の拡大、経済の活性化につながる方策を研究してみる必要があると思うがどうか。

答 基礎自治体の連合体が、核兵器ノー、原発ノーと言うことが、この国や世界を動かす最初のスタートだと思う。私は、平成21年に平和市長会議に加盟した。核兵器を根絶、拡散を防止することは我々の務めだと思う。脱原発、

(市長)

新エネルギーの見解を持った日本が、世界会議を動かす時代が来ると思う。また、再生可能なエネルギーについては、実用性があり、費用対効果が得られるのであれば、総社市として新エネルギー検討委員会を立ち上げ、みんなで研究し、できるところから始めていけばいいと思う。(市長)

西森 頼夫

台風12号の被害について

問 水内河原から美袋、下倉など各地のコミュニティ広場が被害を受けている。復旧をどう進めるのか。

答 コミュニティ広場は、真砂土を配給して修理すると協議と契約しているので、その方向で対応する。(市長)

問 道路が常時水没する草田や作原の対策は、いかに進め

るのか。

答 草田入口の道路と橋をかさ上げして改善する。作原は国道のパラペットをもう1m高くするよう国に要請する。

問 ダムの放流が被害を大きくした。気象庁は台風情報と雨量をきめ細かく発表しており、ダムの上流にどれだけの降雨量があるか計算できる。その量を前日に放流すべきだ。

答 9月3日の11時から12時までに黒鳥ダムは毎秒133

4トン放流した。

これに小阪部・河本・千屋の各ダムの放流で毎秒2千トンを超え、加えて空から降る雨で高梁川の水位は10m33cmになった。これでは下流はひとたまりもない。ダムの放流調整を求めていく。(市長)

